

# 江南市

## 地域福祉計画に関するアンケート調査

### 【調査結果報告書 抜粋版】

#### 【目次】

1	調査の概要 .....	1
2	市民意識調査結果の概要 .....	1
	(1) 回答者の基本属性 .....	1
	(2) 「地域」の範囲 .....	2
	(3) 近所付き合いの状況 .....	2
	(4) 「支援」の担い手の役割分担 .....	3
	(5) 地域活動への参加 .....	4
	(6) ボランティア、NPO活動への参加状況 .....	4
	(7) 社会福祉協議会に期待すること .....	5
	(8) 民生委員・児童委員に期待すること .....	6
	(9) 地域のつながりが必要だと感じる時 .....	6
	(10) 助け合い、支え合いの地域づくりに向けて力を入れるべきこと .....	7
3	活動主体者調査結果の概要 .....	8
	(1) 活動に関わっている理由 .....	8
	(2) 活動上の課題 .....	8
	(3) 地域福祉が推進されたと思う点 .....	9
	(4) 行政サービスや地域活動において支援しきれていないと思う対象 .....	10
	(5) 助け合い、支え合いの地域づくりに向けて力を入れるべきこと .....	11

# 1 調査の概要

「江南市地域福祉計画」及び「江南市地域福祉活動計画」の策定に際し、地域の現状やニーズ、活動主体者の活動状況等を把握し、施策立案の検討材料とするため、以下の2種の調査を実施しました。

## ①市民意識調査

市内在住の18歳以上の市民を対象に、福祉に関する考え、地域活動への参加状況などの実態をお聞きしました。

## ②活動主体者調査

地域で活動している民生委員・児童委員や区長・町総代を対象に、活動の状況や課題等をお聞きしました。

### ■回収結果

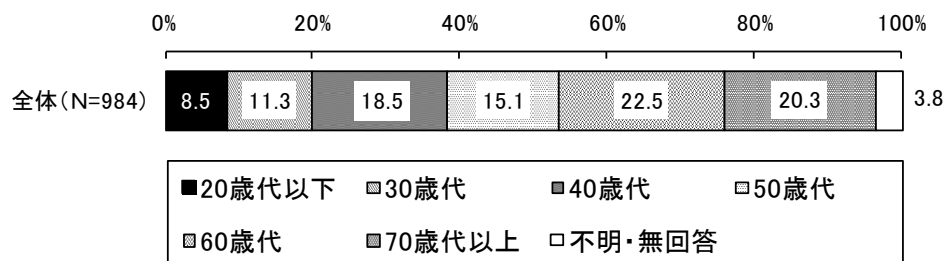
	配付数	回収数	回収率
①市民意識調査	2,000	984	49.2%
②活動主体者調査	281	201	71.5%

# 2 市民意識調査結果の概要

## (1)回答者の基本属性

回答者の年齢構成は、60歳代未満と60歳代以上が概ね半々となっています。比較的高齢の回答者が多いこともあり、居住年数は20年を超えている割合が多くなっています。

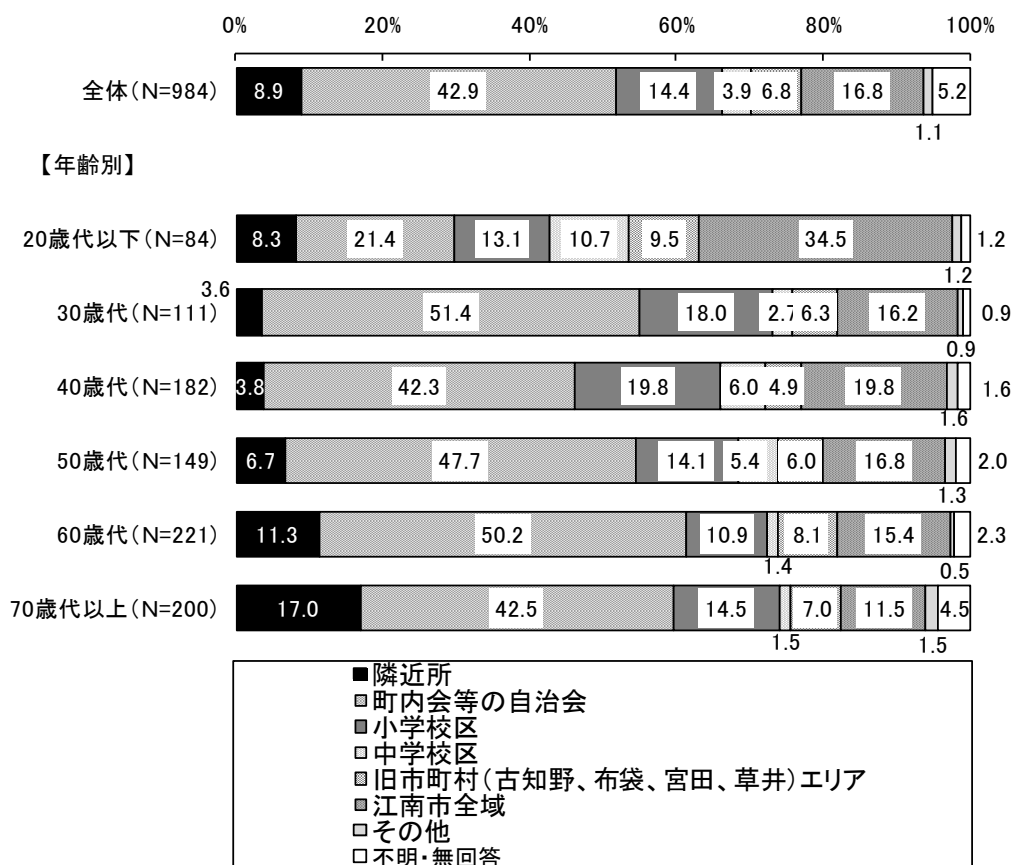
### ■回答者の年齢構成



## (2)「地域」の範囲

市民が感じる「地域」の範囲は、全体では「町内会等の自治会」が最も高くなっています。20歳代以下の若い世代では「江南市全域」が3割強となっているのに対し、70歳代以上では「隣近所」が2割弱となっており、年齢が上がるにつれて、「隣近所」「町内会等の自治会」等の比較的小地域を回答する人が多くなる傾向がみられます。

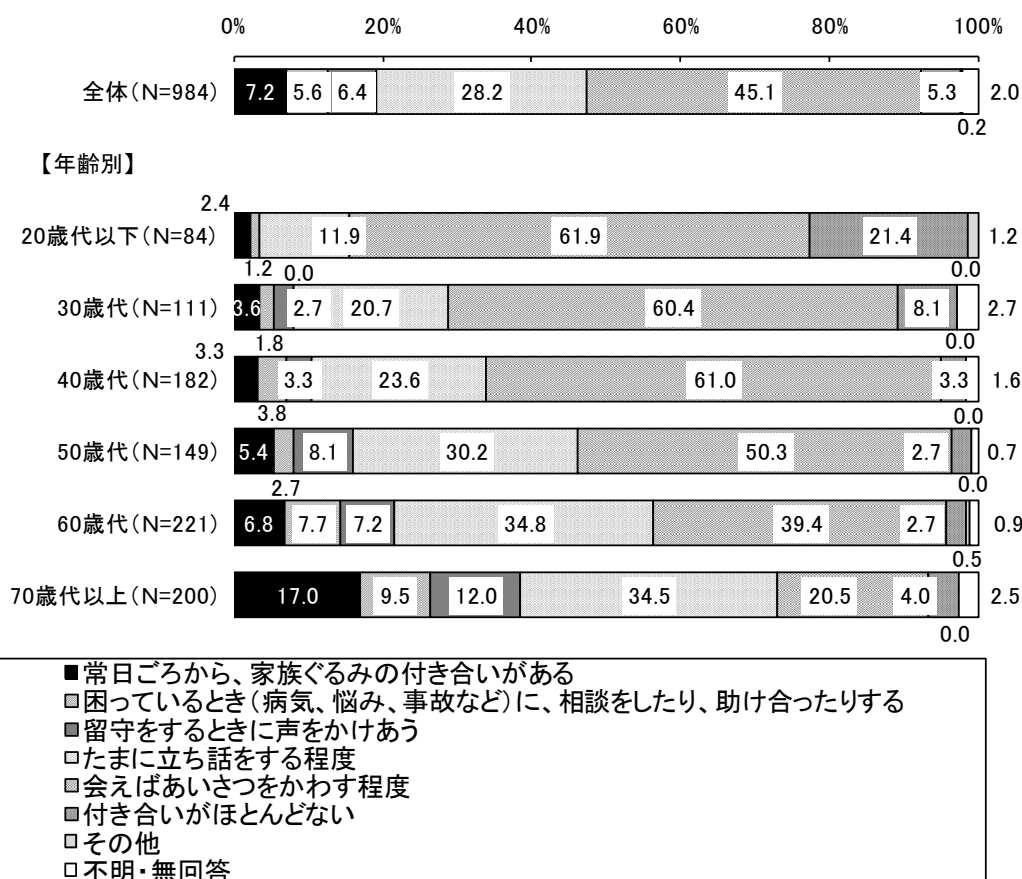
### ■「地域」とはどの程度の範囲だと思うか



## (3)近所付き合いの状況

近所付き合いの程度は、全体では「会えばあいさつをかわす程度」が最も高くなっています。年齢が上がるにつれて、「常日ごろから、家族ぐるみの付き合いがある」「困っているとき（病気、悩み、事故など）に、相談したり、助け合ったりする」といった、密な関係を築いている人が多くなる傾向にあります。一方で、20歳代以下の世代では「付き合いがほとんどない」が2割強となっています。若い人程「地域」の認識が広域であることに鑑みても、若い人が身近な地域での関係が希薄であることがうかがえます。

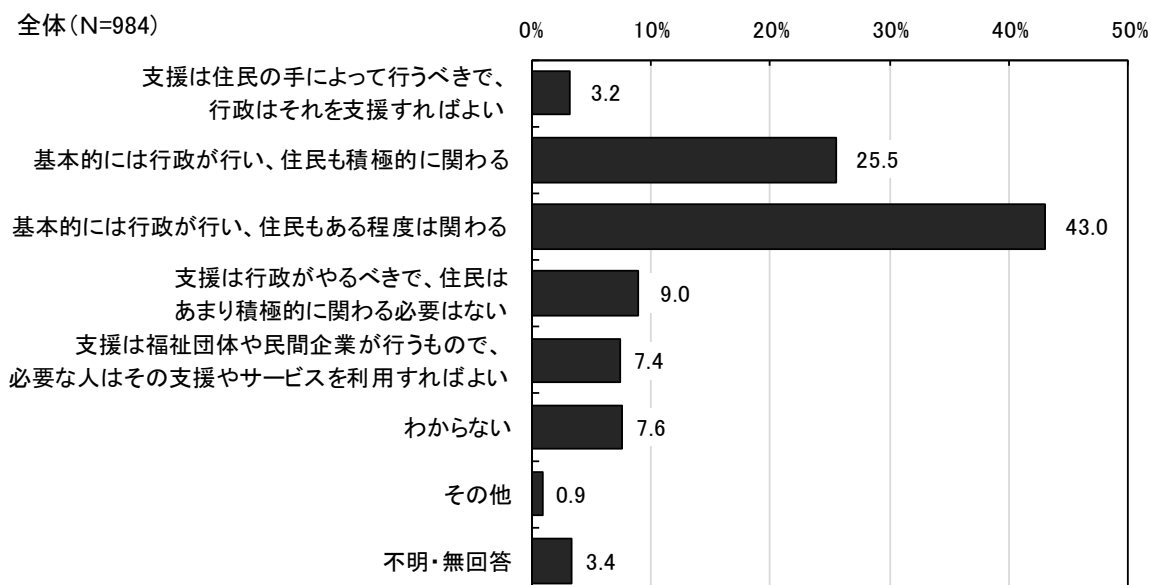
■近所付き合いの程度



(4)「支援」の担い手の役割分担

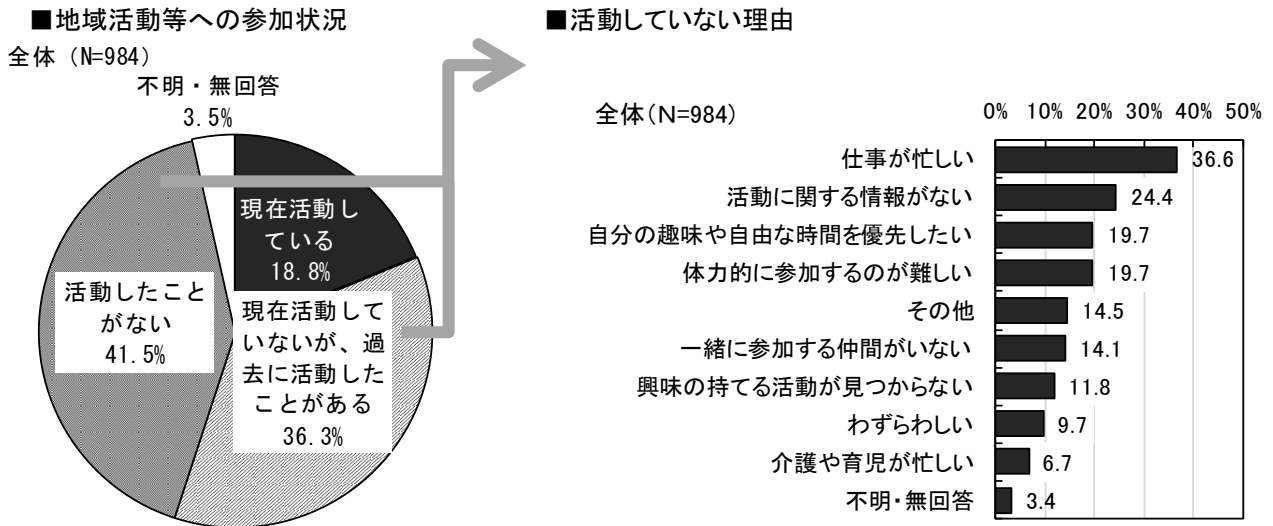
支援の担い手として、住民や行政、民間企業等の役割分担として望ましいあり方については、「基本的には行政が行い、住民も積極的に関わる」「基本的には行政が行い、住民もある程度は関わる」が高くなっており、行政主導ではあるものの、一定の住民参画の必要性についての認識がある現状がうかがえます。

■支援の担い手として、住民や行政、民間企業等の役割分担として望ましいあり方



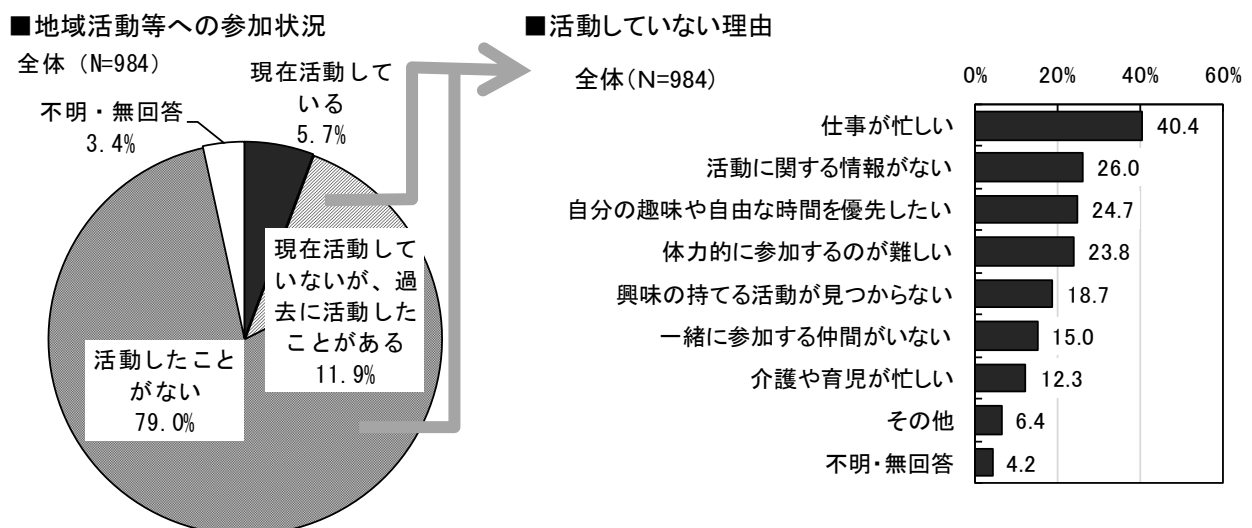
## (5) 地域活動への参加

地域活動等への参加状況は全体の2割弱となっています。  
活動していない理由は、「仕事が忙しい」が高くなっています。



## (6) ボランティア、NPO活動への参加状況

ボランティア等への参加状況は全体の5.7%と、地域活動等と比較して低くなっています。  
活動していない理由は、地域活動に参加していない理由と同様「仕事が忙しい」が高くなっています。



## (7) 社会福祉協議会に期待すること

社会福祉協議会に期待することは、全体で「高齢者への支援」が最も高くなっています。30歳代以下では「子育て家庭への支援」、40歳代以上では「高齢者への支援」が最も高くなっており、年齢により差がみられます。

■社会福祉協議会に期待すること(年齢別クロス集計表)

(単位:%)

	子育て家庭への支援	高齢者への支援	障害のある人への支援	生活困窮者への支援	上記1～4の人を支援する家族等への支援	ボランティア事業(活動支援など)	小中高生への福祉教育	地域の支えあい・ふれあい・見守り活動事業	福祉に関する情報発信と研修
【年齢別】									
20歳代以下(N=84)	42.9	31.0	22.6	11.9	32.1	6.0	10.7	9.5	6.0
30歳代(N=111)	51.4	39.6	24.3	8.1	22.5	4.5	9.0	19.8	8.1
40歳代(N=182)	26.9	39.6	26.4	11.0	31.3	8.2	15.4	12.6	14.8
50歳代(N=149)	13.4	36.2	26.8	10.1	28.2	13.4	11.4	20.1	13.4
60歳代(N=221)	16.7	52.0	28.5	17.2	15.4	5.0	8.6	19.5	13.1
70歳代以上(N=200)	14.5	54.5	33.0	15.5	10.5	5.5	5.0	17.0	14.0

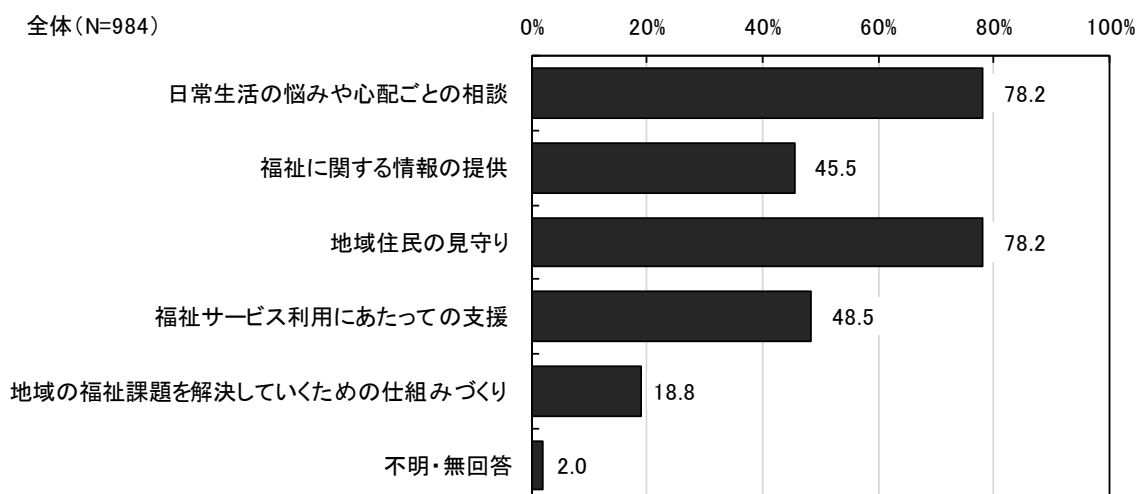
	気軽に立ち寄れる地域の交流拠点づくり	成年後見制度等の権利を守る事業	防災に関する事業	既存の福祉サービスでは対応が難しいニーズの解決への取り組み	その他	特になし	不明・無回答
【年齢別】							
20歳代以下(N=84)	14.3	2.4	17.9	8.3	2.4	4.8	2.4
30歳代(N=111)	12.6	0.9	16.2	8.1	2.7	7.2	6.3
40歳代(N=182)	14.3	1.6	9.9	18.7	1.1	6.0	4.4
50歳代(N=149)	19.5	3.4	15.4	18.1	2.7	5.4	4.7
60歳代(N=221)	19.9	3.6	7.7	10.4	0.9	6.3	8.1
70歳代以上(N=200)	23.5	2.0	9.0	2.5	0.0	4.5	14.5

※不明・無回答を除き、回答の高いもの第1位と第2位に網掛けをしています

## (8) 民生委員・児童委員に期待すること

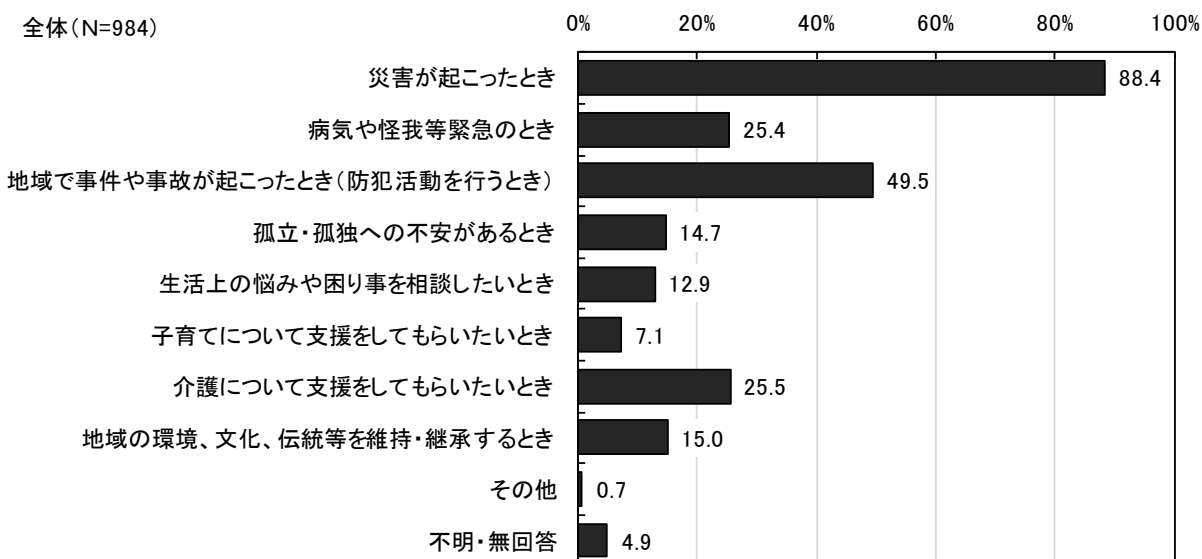
民生委員・児童委員に期待することは、「日常生活の悩みや心配ごとの相談」「地域住民の見守り」が最も高くなっていますが、いずれの項目にも2割弱から4割の回答があり、民生委員・児童委員の役割に期待するところが大きいことがうかがえます。

### ■ 民生委員・児童委員に期待すること



## (9) 地域のつながりが必要だと感じる時

地域のつながりが必要だと感じる時は、「災害が起こったとき」が突出して高く、年齢、小学校区でもその傾向は変わりません。「地域で事件や事故が起こったとき（防犯活動を行うとき）」が続いており、安全・安心な地域づくりに向けた地域のつながりの強化が求められています。



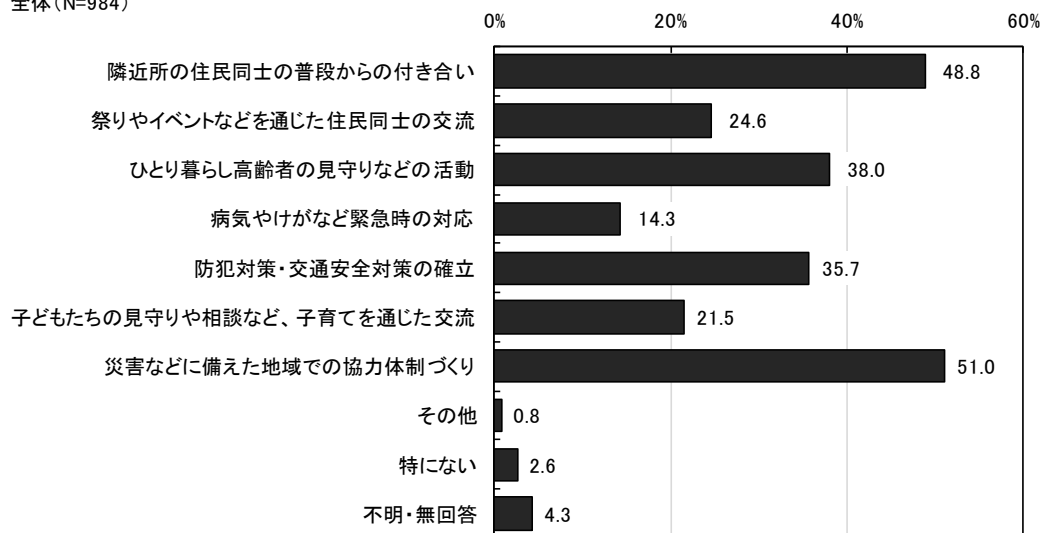
## (10) 助け合い、支え合いの地域づくりに向けて力を入れるべきこと

助け合い、支え合いの地域づくりに向けて地域として力を入れるべきことは、「隣近所の住民同士の普段からの付き合い」「災害などに備えた地域での協力体制づくり」が高くなっています。災害対策として地域のつながりを強化していくことに関して市民の意識が高くなっていることがうかがえます。

行政として力を入れるべきことは、「高齢者や障害のある人の自宅生活を支援する在宅福祉サービスを充実させる」「安心して子どもを生み育てられる子育て環境を充実させる」が高く、行政として公的な支援と、地域のつながりで解決できることの役割分担を図りながら、助け合い、支え合いの地域づくりを進めていく必要があります。

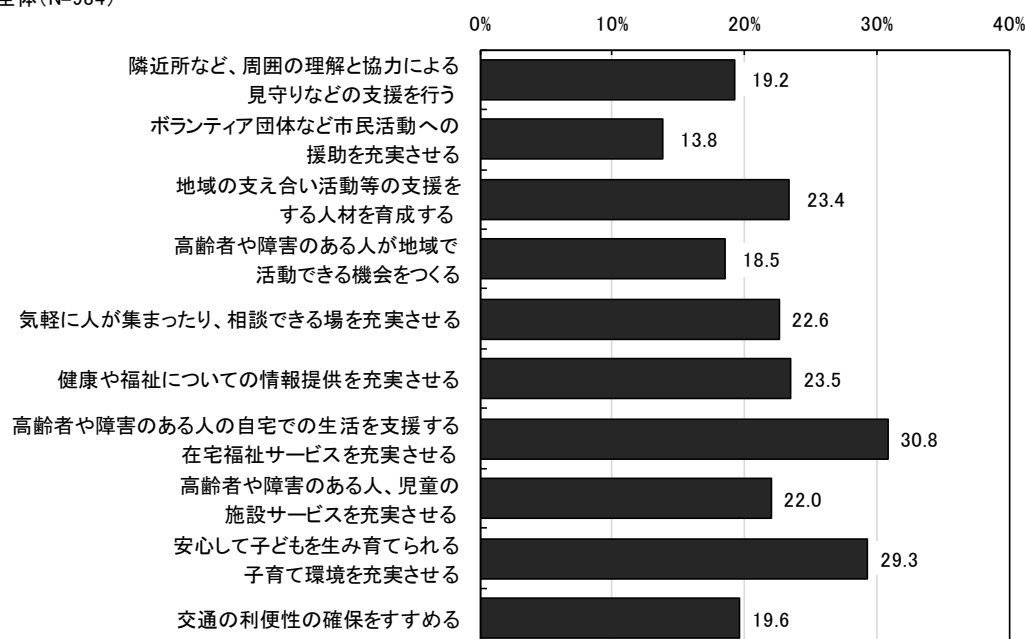
### ■ 地域として力を入れるべきこと

全体(N=984)



### ■ 行政として力を入れるべきこと

全体(N=984)



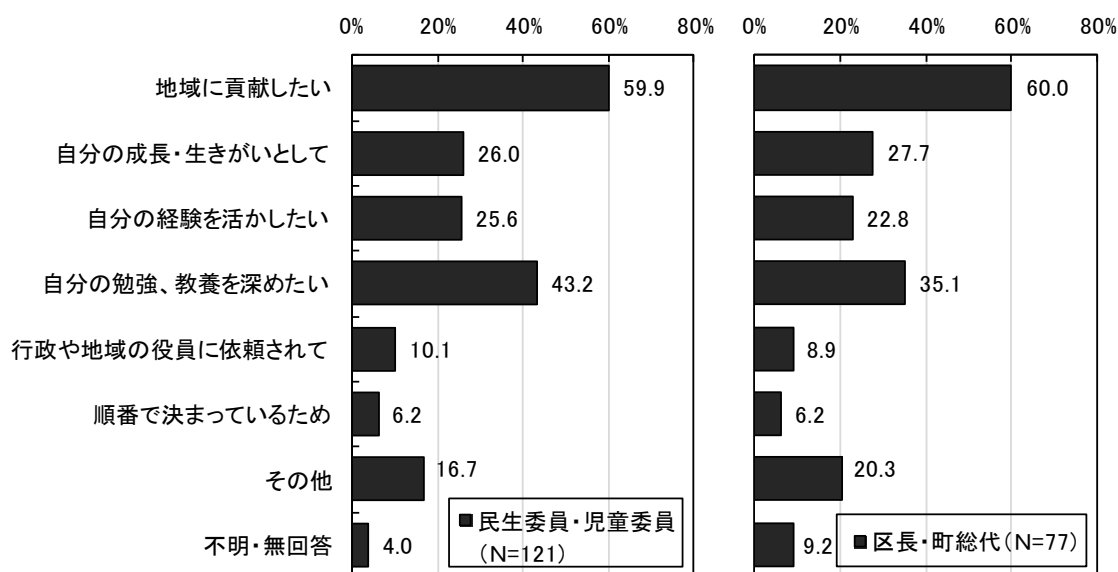


### 3 活動主体者調査結果の概要

#### (1) 活動に関わっている理由

活動に関わっている理由は、民生委員・児童委員、区長・町総代ともに「地域に貢献したい」が最も高くなっています。

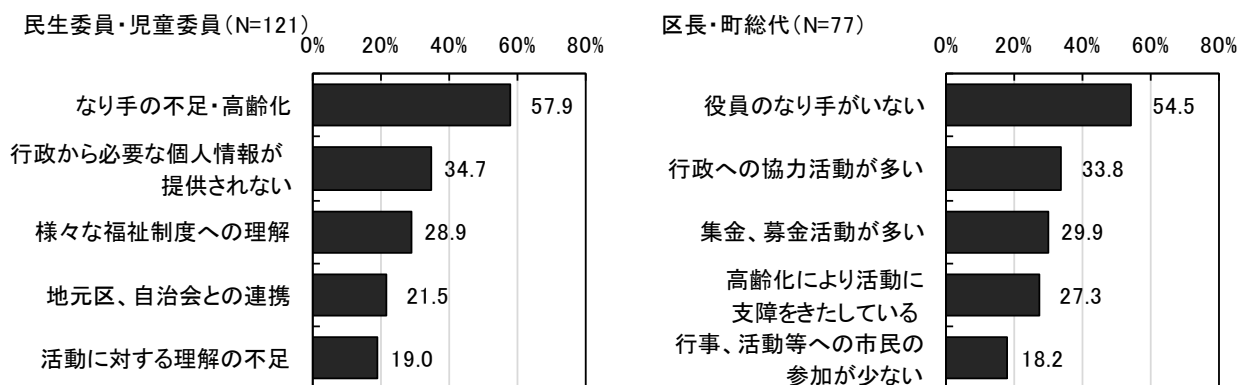
■活動に関わっている理由



#### (2) 活動上の課題

活動の課題は、民生委員・児童委員では「なり手の不足・高齢化」が最も高くなっています。区長・町総代でも「役員のなり手がいない」が最も高く、高齢化等による担い手の不足が課題となっています。

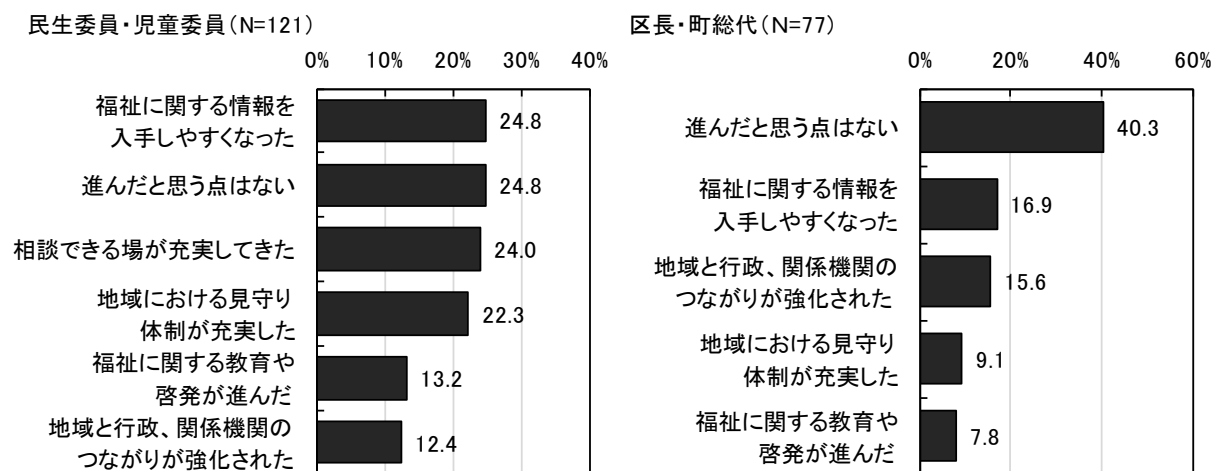
■活動上の課題(上位5位)



### (3) 地域福祉が推進されたと思う点

地域福祉が推進されたと思う点は、民生委員・児童委員、区長・町総代ともに「福祉に関する情報を入手しやすくなった」が上位となっています。一方で、「進んだと思う点はない」が民生委員・児童委員では24.8%、区長・町総代では40.3%となっており、地域福祉の推進について実感が得られていない現状がうかがえます。

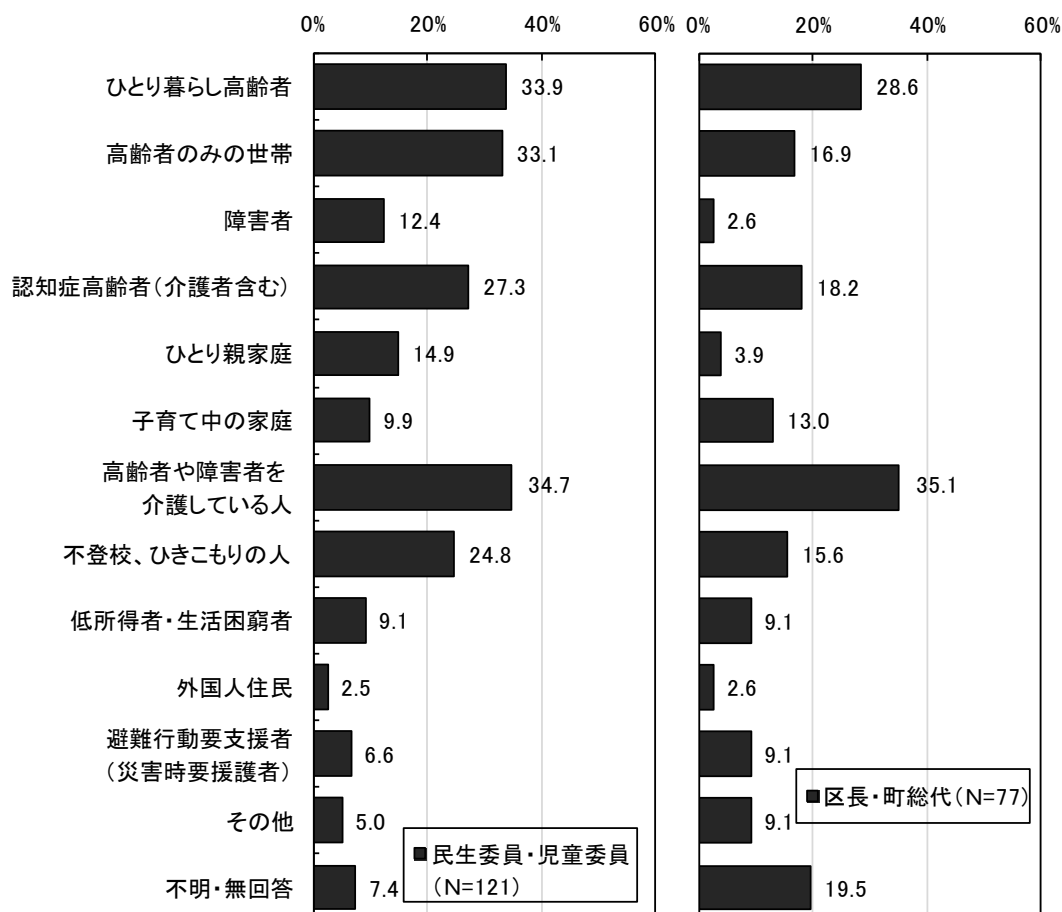
#### ■ 地域福祉が推進されたと思う点（上位5位）



## (4) 行政サービスや地域活動において支援しきれていないと思う対象

行政サービスや地域活動において支援しきれていないと思う対象は、民生委員・児童委員、区長・町総代ともに「高齢者や障害者を介護している人」が最も高くなっています。高齢者自身に対する支援だけでなく、介護者に対する支援も充実していく必要があります。

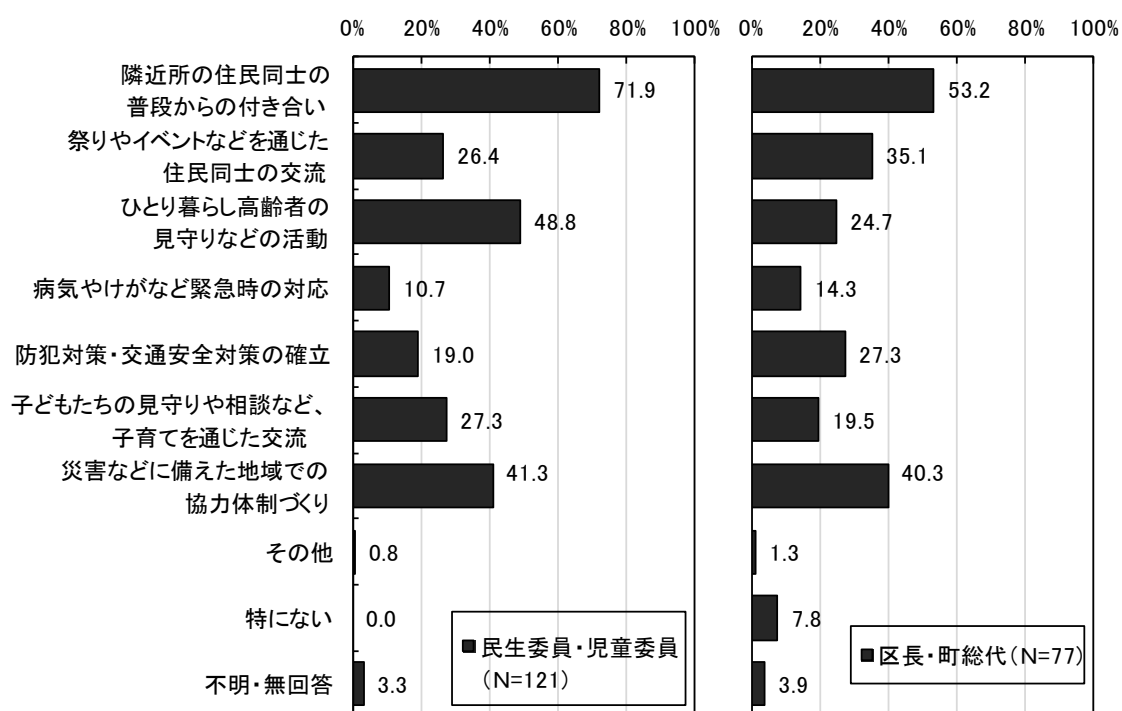
### ■行政サービスや地域活動において支援しきれていないと思う対象



## (5) 助け合い、支え合いの地域づくりに向けて力を入れるべきこと

助け合い、支え合いの地域づくりに向けて地域として力を入れるべきことは、民生委員・児童委員、区長・町総代ともに「隣近所の住民同士の普段からの付き合い」「災害などに備えた地域での協力体制づくり」が高くなっており、これは市民意識調査と同じ傾向となっています。民生委員・児童委員では「ひとり暮らし高齢者の見守りなどの活動」も高くなっています。

### ■地域として力を入れるべきこと



行政として力を入れるべきことは、民生委員・児童委員では「気軽に人が集まったり、相談できる場を充実させる」が最も高くなっています。区長・町総代では「交通の利便性の確保をすすめる」が最も高く、立場によって回答に差が出ています。この結果は、市民意識調査とも差が出ており、置かれている立場によって、行政に求めるものが多様であることがうかがえます。

■行政として力を入れるべきこと

